

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 3 区分

【発行日】平成 23 年 6 月 2 日 (2011.6.2)

【公表番号】特表 2010-526892 (P2010-526892A)

【公表日】平成 22 年 8 月 5 日 (2010.8.5)

【年通号数】公開・登録公報 2010-031

【出願番号】特願 2010-506835 (P2010-506835)

【国際特許分類】

C 0 8 F 290/06 (2006.01)

C 0 8 F 220/26 (2006.01)

【F I】

C 0 8 F 290/06

C 0 8 F 220/26

【誤訳訂正書】

【提出日】平成 23 年 4 月 18 日 (2011.4.18)

【誤訳訂正 1】

【訂正対象書類名】特許請求の範囲

【訂正対象項目名】請求項 2

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【請求項 2】

モノマー (A) の モル分率 が 1 ~ 80 %、モノマー (B) のモル比が 0.1 ~ 80 % であり、そしてモノマー (C) の モル分率 が 0.1 ~ 80 % であることを特徴とする、請求項 1 に記載のコポリマー。

【誤訳訂正 2】

【訂正対象書類名】特許請求の範囲

【訂正対象項目名】請求項 3

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【請求項 3】

モノマー (A) の モル分率 が 10 ~ 70 %、モノマー (B) のモル比が 10 ~ 60 % であり、そしてモノマー (C) の モル分率 が 10 ~ 60 % であることを特徴とする、請求項 1 又は 2 に記載のコポリマー。

【誤訳訂正 3】

【訂正対象書類名】特許請求の範囲

【訂正対象項目名】請求項 4

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【請求項 4】

アルキレンオキシド単位 (A - O)<sub>m</sub> 及び (B - O)<sub>n</sub> がブロック状に配置されていることを特徴とする請求項 1 ~ 3 のいずれか一項に記載のコポリマー。

【誤訳訂正 4】

【訂正対象書類名】特許請求の範囲

【訂正対象項目名】請求項 5

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【請求項 5】

(A - O)<sub>m</sub> がプロピレンオキサイド単位であり、そして (B - O)<sub>n</sub> がエチレンオキ

サイド単位であるか、または、 $(A-O)_m$  がエチレンオキサイド単位であり、そして  $(B-O)_n$  がプロピレンオキサイド単位であり、そしてエチレンオキサイド単位のモル分率が、エチレンオキサイド単位とプロピレンオキサイド単位との合計を基準として 50 ~ 98 %であることを特徴とする請求項 1 ~ 4 のいずれか一項に記載のコポリマー。

【誤訳訂正 5】

【訂正対象書類名】特許請求の範囲

【訂正対象項目名】請求項 6

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【請求項 6】

エチレンオキサイド単位のモル分率が、エチレンオキサイド単位とプロピレンオキサイド単位との合計を基準として 60 ~ 95 %であることを特徴とする請求項 5 に記載のコポリマー。

【誤訳訂正 6】

【訂正対象書類名】特許請求の範囲

【訂正対象項目名】請求項 1 2

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【請求項 1 2】

分散剤としての、特に顔料又はフィラーのための、請求項 1 ~ 10 のいずれか一項に記載のコポリマーの使用。

【誤訳訂正 7】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0015

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0015】

モノマーのモル分率は、モノマー(A)が 1 ~ 80 %、モノマー(B)が 0.1 ~ 80 % 及びモノマー(C)が 0.1 ~ 80 %であるのが好ましい。モノマーのモル分率は、特に好ましくは、モノマー(A)が 10 ~ 70 %、モノマー(B)が 10 ~ 60 % 及びモノマー(C)が 10 ~ 60 %である。

【誤訳訂正 8】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0016

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0016】

アルキレンオキシド単位  $(A-O)_m$  及び  $(B-O)_n$  は、ランダムな形態、又は好ましい実施形態においては、ブロック状に配置されているができる。ある好ましい実施形態においては、 $(A-O)_m$  はエチレンオキサイド単位であり、 $(B-O)_n$  はエプロピレンオキサイド単位であり、または、 $(A-O)_m$  はエチレンオキサイド単位であり、 $(B-O)_n$  はプロピレンオキサイド単位であり、その際、エチレンオキサイド単位のモル分率は、エチレンオキサイド単位とプロピレンオキサイド単位との合計(100%)を基準として、好ましくは 50 ~ 98 %、より好ましくは 60 ~ 95 %、特に好ましくは 70 ~ 95 %である。原則として、アルキレンオキサイド単位の合計は、 $n + m = 2 \sim 1000$  であり、好ましくは 2 ~ 500、特に 2 ~ 100、特に好ましくは 5 ~ 100 である。

【誤訳訂正 9】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0031

【訂正方法】変更

## 【訂正の内容】

## 【0031】

## 合成例 1

攪拌器、還流冷却器、内部温度計及び窒素注入口を有するフラスコ中に、最初に、258 g のポリアルキレングリコールモノメタクリレート（モル質量750、EO/POモル比6.3）、136.4 g の2-エチルヘキシルメタクリレート、71.6 g のスチレン及び660 ml のtert-ブタノール中の16.5 g の1-ドデカンチオールを窒素雰囲気下投入した。その後、投入物を攪拌しながら80 に加熱した。反応温度に到達したところで、130 ml のイソブタノール中に溶解した16.5 g のAMB N開始剤を1時間にわたり添加した。これに続けてその温度でさらに5時間攪拌した。室温まで冷却した後、減圧下で溶剤を除去した。得られたポリマーのモル質量 $M_w = 15100 \text{ g/mol}$ （GPCによる、対照試料：ポリエチレングリコール）

## 【誤訳訂正10】

## 【訂正対象書類名】明細書

## 【訂正対象項目名】0032

## 【訂正方法】変更

## 【訂正の内容】

## 【0032】

## 合成例 2

攪拌器、還流冷却器、内部温度計及び窒素注入口を有するフラスコ中に、最初に、210 g のポリアルキレングリコールモノメタクリレート（モル質量350、EO/POモル比1.7）、79.2 g の2-エチルヘキシルメタクリレート、41.6 g のスチレン及び470 ml のtert-ブタノール中の13.4 g の1-ドデカンチオールを窒素雰囲気下投入した。その後、投入物を攪拌しながら80 に加熱した。反応温度に到達したところで、95 ml のイソブタノール中に溶解した13.4 g のAMB N開始剤を1時間にわたり添加した。これに続けてその温度でさらに5時間攪拌した。室温まで冷却した後、減圧下で溶剤を除去した。得られたポリマーのモル質量 $M_w = 6900 \text{ g/mol}$ （GPCによる、対照試料：ポリエチレングリコール）

## 【誤訳訂正11】

## 【訂正対象書類名】明細書

## 【訂正対象項目名】0033

## 【訂正方法】変更

## 【訂正の内容】

## 【0033】

## 合成例 3

攪拌器、還流冷却器、内部温度計及び窒素注入口を有するフラスコ中に、最初に、258 g のポリアルキレングリコールモノメタクリレート（モル質量750、EO/POモル比6.3）、87.5 g のラウリルメタクリレート、35.8 g のスチレン及び530 ml のtert-ブタノール中の9.9 g の1-ドデカンチオールを窒素雰囲気下投入した。その後、投入物を攪拌しながら80 に加熱した。反応温度に到達したところで、110 ml のイソブタノール中に溶解した9.9 g のAMB N開始剤を1時間にわたり添加した。これに続けてその温度でさらに5時間攪拌した。室温まで冷却した後、減圧下で溶剤を除去した。得られたポリマーのモル質量 $M_w = 14000 \text{ g/mol}$ （GPCによる、対照試料：ポリエチレングリコール）

## 【誤訳訂正12】

## 【訂正対象書類名】明細書

## 【訂正対象項目名】0034

## 【訂正方法】変更

## 【訂正の内容】

## 【0034】

## 合成例 4

攪拌器、還流冷却器、内部温度計及び窒素注入口を有するフラスコ中に、最初に、210 g のポリアルキレングリコールモノメタクリレート（モル質量 350、EO/POモル比 1.7）、101.6 g のラウリルメタクリレート、41.6 g のスチレン及び 500 ml の tert - ブタノール中の 13.4 g の 1 - ドデカンチオールを窒素雰囲気下投入した。その後、投入物を攪拌しながら 80 に加熱した。反応温度に到達したところで、100 ml のイソブタノール中に溶解した 13.4 g の AMBN 開始剤を 1 時間にわたり添加した。これに続けてその温度でさらに 5 時間攪拌した。室温まで冷却した後、減圧下で溶剤を除去した。得られたポリマーのモル質量  $M_w = 7700 \text{ g/mol}$ （GPC による、対照試料：ポリエチレングリコール）

【誤訳訂正 13】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0035

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0035】

## 合成例 5

攪拌器、還流冷却器、内部温度計及び窒素注入口を有するフラスコ中に、最初に、363 g のポリアルキレングリコールモノメタクリレート（モル質量 1100、70% の tert - ブタノール中 EO/POモル比 10.2）、117.3 g のラウリルメタクリレート、48.0 g のスチレン及び 730 ml の tert - ブタノール中の 11.1 g の 1 - ドデカンチオールを窒素雰囲気下投入した。その後、投入物を攪拌しながら 80 に加熱した。反応温度に到達したところで、150 ml のイソブタノール中に溶解した 11.1 g の AMBN 開始剤を 1 時間にわたり添加した。これに続けてその温度でさらに 5 時間攪拌した。室温まで冷却した後、減圧下で溶剤を除去した。得られたポリマーのモル質量  $M_w = 22000 \text{ g/mol}$ （GPC による、対照試料：ポリエチレングリコール）

【誤訳訂正 14】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0036

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0036】

## 合成例 6

攪拌器、還流冷却器、内部温度計及び窒素注入口を有するフラスコ中に、最初に、452 g のポリアルキレングリコールモノメタクリレート（モル質量 2000、70% の tert - ブタノール中 EO/POモル比 20.5）、80.4 g のラウリルメタクリレート、32.9 g のスチレン及び 780 ml の tert - ブタノール中の 7.6 g の 1 - ドデカンチオールを窒素雰囲気下投入した。その後、投入物を攪拌しながら 80 に加熱した。反応温度に到達したところで、160 ml のイソブタノール中に溶解した 7.6 g の AMBN 開始剤を 1 時間にわたり添加した。これに続けてその温度でさらに 5 時間攪拌した。室温まで冷却した後、減圧下で溶剤を除去した。得られたポリマーのモル質量  $M_w = 30500 \text{ g/mol}$ （GPC による、対照試料：ポリエチレングリコール）

【誤訳訂正 15】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0037

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0037】

## 合成例 7

攪拌器、還流冷却器、内部温度計及び窒素注入口を有するフラスコ中に、最初に、21

0 g のポリアルキレングリコールモノメタクリレート（モル質量 350、EO/POモル比 1.7）、202.8 g のステアリルメタクリレート、62.4 g のスチレン及び 660 ml のtert-ブタノール中の 11.5 g の1-ドデカンチオールを窒素雰囲気下投入した。その後、投入物を攪拌しながら 80 に加熱した。反応温度に到達したところで、130 ml のイソブタノール中に溶解した 11.5 g の AMBN 開始剤を 1 時間にわたり添加した。これに続けてその温度でさらに 5 時間攪拌した。室温まで冷却した後、減圧下で溶剤を除去した。得られたポリマーのモル質量  $M_w = 8100 \text{ g/mol}$ （GPC による、対照試料：ポリエチレングリコール）

【誤訳訂正 16】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0038

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0038】

#### 合成例 8

攪拌器、還流冷却器、内部温度計及び窒素注入口を有するフラスコ中に、最初に、258 g のポリアルキレングリコールモノメタクリレート（モル質量 750、EO/POモル比 6.3）、38.2 g のイソボルニルメタクリレート、30.3 g のベンジルメタクリレート及び 470 ml のtert-ブタノール中の 13.2 g の1-ドデカンチオールを窒素雰囲気下投入した。その後、投入物を攪拌しながら 80 に加熱した。反応温度に到達したところで、100 ml のイソブタノール中に溶解した 13.2 g の AMBN 開始剤を 1 時間にわたり添加した。これに続けてその温度でさらに 5 時間攪拌した。室温まで冷却した後、減圧下で溶剤を除去した。得られたポリマーのモル質量  $M_w = 15000 \text{ g/mol}$ （GPC による、対照試料：ポリエチレングリコール）

【誤訳訂正 17】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0039

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0039】

#### 合成例 9

攪拌器、還流冷却器、内部温度計及び窒素注入口を有するフラスコ中に、最初に、363 g のポリアルキレングリコールモノメタクリレート（モル質量 1100、70%のt-ブタノール中EO/POモル比 10.2）、39.3 g のテトラヒドロフルフリルメタクリレート、87.8 g のフェネチルメタクリレート及び 670 ml のtert-ブタノール中の 8.9 g の1-ドデカンチオールを窒素雰囲気下投入した。その後、投入物を攪拌しながら 80 に加熱した。反応温度に到達したところで、130 ml のイソブタノール中に溶解した 8.9 g の AMBN 開始剤を 1 時間にわたり添加した。これに続けてその温度でさらに 5 時間攪拌した。室温まで冷却した後、減圧下で溶剤を除去した。得られたポリマーのモル質量  $M_w = 25800 \text{ g/mol}$ （GPC による、対照試料：ポリエチレングリコール）

【誤訳訂正 18】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0040

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0040】

#### 合成例 10

攪拌器、還流冷却器、内部温度計及び窒素注入口を有するフラスコ中に、最初に、452 g のポリアルキレングリコールモノメタクリレート（モル質量 2000、70%のt-

ブタノール中EO/POモル比20.5)、25.0gの2-エトキシエチルメタクリレート、29.7gの1-ビニルイミダゾール及び700mlのtert-ブタノール中の6.1gの1-ドデカンチオールを窒素雰囲気下投入した。その後、投入物を攪拌しながら80 に加熱した。反応温度に到達したところで、140mlのイソブタノール中に溶解した6.1gのAMBN開始剤を1時間にわたり添加した。これに続けてその温度でさらに5時間攪拌した。室温まで冷却した後、減圧下で溶剤を除去した。得られたポリマーのモル質量 $M_w = 26000 \text{ g/mol}$  (GPCによる、対照試料：ポリエチレングリコール)

【誤訳訂正19】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0041

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0041】

#### 合成例11

攪拌器、還流冷却器、内部温度計及び窒素注入口を有するフラスコ中に、最初に、210gのポリアルキレングリコールモノメタクリレート(モル質量350、EO/POモル比1.7)、69.0gのラウリルアクリレート、52.8gのベンジルメタクリレート及び480mlのtert-ブタノール中の15.3gの1-ドデカンチオールを窒素雰囲気下投入した。その後、投入物を攪拌しながら80 に加熱した。反応温度に到達したところで、100mlのイソブタノール中に溶解した15.3gのAMBN開始剤を1時間にわたり添加した。これに続けてその温度でさらに5時間攪拌した。室温まで冷却した後、減圧下で溶剤を除去した。得られたポリマーのモル質量 $M_w = 7700 \text{ g/mol}$  (GPCによる、対照試料：ポリエチレングリコール)

【誤訳訂正20】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0042

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0042】

#### 合成例12

攪拌器、還流冷却器、内部温度計及び窒素注入口を有するフラスコ中に、最初に、258gのポリアルキレングリコールモノメタクリレート(モル質量750、EO/POモル比6.3)、38.2gの1-ビニル-2-ピロリドン、107.3gのスチレン及び580mlのtert-ブタノール中の16.5gの1-ドデカンチオールを窒素雰囲気下投入した。その後、投入物を攪拌しながら80 に加熱した。反応温度に到達したところで、120mlのイソブタノール中に溶解した16.5gのAMBN開始剤を1時間にわたり添加した。これに続けてその温度でさらに5時間攪拌した。室温まで冷却した後、減圧下で溶剤を除去した。得られたポリマーのモル質量 $M_w = 12100 \text{ g/mol}$  (GPCによる、対照試料：ポリエチレングリコール)

【誤訳訂正21】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0043

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0043】

#### 合成例13

攪拌器、還流冷却器、内部温度計及び窒素注入口を有するフラスコ中に、最初に、452gのポリアルキレングリコールモノメタクリレート(モル質量2000、70%のt-ブタノール中EO/POモル比20.5)、31.3gの2-エチルヘキシルメタクリレ

ート、27.8 gのベンジルメタクリレート及び700 mlのtert-ブタノール中の4.6 gの1-ドデカンチオールを窒素雰囲気下投入した。その後、投入物を攪拌しながら80 に加熱した。反応温度に到達したところで、140 mlのイソブタノール中に溶解した4.6 gのAMBN開始剤を1時間にわたり添加した。これに続けてその温度でさらに5時間攪拌した。室温まで冷却した後、減圧下で溶剤を除去した。得られたポリマーのモル質量 $M_w = 27000 \text{ g/mol}$  (GPCによる、対照試料：ポリエチレングリコール)

【誤訳訂正22】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0044

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0044】

#### 合成例14

攪拌器、還流冷却器、内部温度計及び窒素注入口を有するフラスコ中に、最初に、363 gのポリアルキレングリコールモノメタクリレート(モル質量1100、70%のt-ブタノール中EO/POモル比10.2)、58.7 gのラウリルメタクリレート、43.9 gのフェニルメタクリレート及び630 mlのtert-ブタノール中の6.7 gの1-ドデカンチオールを窒素雰囲気下投入した。その後、投入物を攪拌しながら80 に加熱した。反応温度に到達したところで、130 mlのイソブタノール中に溶解した6.7 gのAMBN開始剤を1時間にわたり添加した。これに続けてその温度でさらに5時間攪拌した。室温まで冷却した後、減圧下で溶剤を除去した。得られたポリマーのモル質量 $M_w = 23000 \text{ g/mol}$  (GPCによる、対照試料：ポリエチレングリコール)

【誤訳訂正23】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0045

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0045】

#### 合成例15

攪拌器、還流冷却器、内部温度計及び窒素注入口を有するフラスコ中に、最初に、258 gのポリアルキレングリコールモノメタクリレート(モル質量750、EO/POモル比6.3)、116.3 gのステアリルメタクリレート、70.9 gの2-フェノキシエチルメタクリレート及び620 mlのtert-ブタノール中の9.9 gの1-ドデカンチオールを窒素雰囲気下投入した。その後、投入物を攪拌しながら80 に加熱した。反応温度に到達したところで、120 mlのイソブタノール中に溶解した9.9 gのAMBN開始剤を1時間にわたり添加した。これに続けてその温度でさらに5時間攪拌した。室温まで冷却した後、減圧下で溶剤を除去した。得られたポリマーのモル質量 $M_w = 11200 \text{ g/mol}$  (GPCによる、対照試料：ポリエチレングリコール)

【誤訳訂正24】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0046

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0046】

#### 合成例16

攪拌器、還流冷却器、内部温度計及び窒素注入口を有するフラスコ中に、最初に、210 gのポリアルキレングリコールモノメタクリレート(モル質量350、EO/POモル比0.43)、72.0 gのラウリルアクリレート、52.8 gのベンジルメタクリレート及び480 mlのtert-ブタノール中の11.1 gの1-ドデカンチオールを窒素

雰囲気下投入した。その後、投入物を攪拌しながら 80 に加熱した。反応温度に到達したところで、100 ml のイソブタノール中に溶解した 11.1 g の AMBN 開始剤を 1 時間にわたり添加した。これに続けてその温度でさらに 5 時間攪拌した。室温まで冷却した後、減圧下で溶剤を除去した。得られたポリマーのモル質量  $M_w = 8400 \text{ g/mol}$  (GPC による、対照試料：ポリエチレングリコール)

【誤訳訂正 25】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0047

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0047】

合成例 17

攪拌器、還流冷却器、内部温度計及び窒素注入口を有するフラスコ中に、最初に、258 g のポリアルキレングリコールモノメタクリレート (モル質量 750、EO/PO モル比 0.22)、87.5 g のラウリルメタクリレート、35.8 g のスチレン及び 530 ml の tert - ブタノール中の 9.9 g の 1 - ドデカンチオールを窒素雰囲気下投入した。その後、投入物を攪拌しながら 80 に加熱した。反応温度に到達したところで、110 ml のイソブタノール中に溶解した 9.9 g の AMBN 開始剤を 1 時間にわたり添加した。これに続けてその温度でさらに 5 時間攪拌した。室温まで冷却した後、減圧下で溶剤を除去した。得られたポリマーのモル質量  $M_w = 10700 \text{ g/mol}$  (GPC による、対照試料：ポリエチレングリコール)

【誤訳訂正 26】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0048

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0048】

合成例 18

攪拌器、還流冷却器、内部温度計及び窒素注入口を有するフラスコ中に、最初に、363 g のポリアルキレングリコールモノメタクリレート (モル質量 1100、70% の t - ブタノール中 EO/PO モル比 0.30)、58.7 g のラウリルメタクリレート、43.9 g のフェネチルメタクリレート及び 630 ml の tert - ブタノール中の 6.7 g の 1 - ドデカンチオールを窒素雰囲気下投入した。その後、投入物を攪拌しながら 80 に加熱した。反応温度に到達したところで、130 ml のイソブタノール中に溶解した 6.7 g の AMBN 開始剤を 1 時間にわたり添加した。これに続けてその温度でさらに 5 時間攪拌した。室温まで冷却した後、減圧下で溶剤を除去した。得られたポリマーのモル質量  $M_w = 24000 \text{ g/mol}$  (GPC による、対照試料：ポリエチレングリコール)

【誤訳訂正 27】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0049

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0049】

合成例 19

攪拌器、還流冷却器、内部温度計及び窒素注入口を有するフラスコ中に、最初に、388 g のポリアルキレングリコールモノメタクリレート (モル質量 750、EO/PO モル比 6.3)、68.2 g の 2 - エチルヘキシルメタクリレート、35.8 g のスチレン及び 660 ml の tert - ブタノール中の 11.6 g の 1 - ドデカンチオールを窒素雰囲気下投入した。その後、投入物を攪拌しながら 80 に加熱した。反応温度に到達したところで、130 ml のイソブタノール中に溶解した 11.6 g の AMBN 開始剤を 1 時間



にわたり添加した。これに続けてその温度でさらに5時間攪拌した。室温まで冷却した後、減圧下で溶剤を除去した。得られたポリマーのモル質量  $M_w = 15000 \text{ g/mol}$  (GPCによる、対照試料：ポリエチレングリコール)

【誤訳訂正28】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0050

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0050】

#### 合成例20

攪拌器、還流冷却器、内部温度計及び窒素注入口を有するフラスコ中に、最初に、517gのポリアルキレングリコールモノメタクリレート(モル質量750、EO/POモル比6.3)、68.2gの2-エチルヘキシルメタクリレート、35.8gのスチレン及び470mlのtert-ブタノール中の13.2gの1-ドデカンチオールを窒素雰囲気下投入した。その後、投入物を攪拌しながら80に加熱した。反応温度に到達したところで、100mlのイソブタノール中に溶解した13.2gのAMB N開始剤を1時間にわたり添加した。これに続けてその温度でさらに5時間攪拌した。室温まで冷却した後、減圧下で溶剤を除去した。得られたポリマーのモル質量  $M_w = 10000 \text{ g/mol}$  (GPCによる、対照試料：ポリエチレングリコール)

【誤訳訂正29】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0051

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0051】

#### 合成例21

攪拌器、還流冷却器、内部温度計及び窒素注入口を有するフラスコ中に、最初に、280gのポリアルキレングリコールモノメタクリレート(モル質量350、EO/POモル比1.7)、79.2gの2-エチルヘキシルメタクリレート、41.6gのスチレン及び480mlのtert-ブタノール中の15.3gの1-ドデカンチオールを窒素雰囲気下投入した。その後、投入物を攪拌しながら80に加熱した。反応温度に到達したところで、100mlのイソブタノール中に溶解した15.3gのAMB N開始剤を1時間にわたり添加した。これに続けてその温度でさらに5時間攪拌した。室温まで冷却した後、減圧下で溶剤を除去した。得られたポリマーのモル質量  $M_w = 13500 \text{ g/mol}$  (GPCによる、対照試料：ポリエチレングリコール)

【誤訳訂正30】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0052

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0052】

#### 合成例22

攪拌器、還流冷却器、内部温度計及び窒素注入口を有するフラスコ中に、最初に、387gのポリアルキレングリコールモノメタクリレート(モル質量750、EO/POモル比6.3)、87.5gのラウリルメタクリレート、35.8gのスチレン及び660mlのtert-ブタノール中の11.6gの1-ドデカンチオールを窒素雰囲気下投入した。その後、投入物を攪拌しながら80に加熱した。反応温度に到達したところで、130mlのイソブタノール中に溶解した11.6gのAMB N開始剤を1時間にわたり添加した。これに続けてその温度でさらに5時間攪拌した。室温まで冷却した後、減圧下で溶剤を除去した。得られたポリマーのモル質量  $M_w = 9700 \text{ g/mol}$  (GPCによる

、対照試料：ポリエチレングリコール)

【誤訳訂正 3 1】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0 0 5 3

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0 0 5 3】

合成例 2 3

攪拌器、還流冷却器、内部温度計及び窒素注入口を有するフラスコ中に、最初に、2 6 7 g のポリアルキレングリコールモノメタクリレート（モル質量 3 5 0、E O / P O モル比 1 . 7）、1 0 1 . 6 g のラウリルメタクリレート、4 1 . 6 g のスチレン及び 4 8 0 m l の t e r t - ブタノール中の 1 5 . 3 g の 1 - ドデカンチオールを窒素雰囲気下投入した。その後、投入物を攪拌しながら 8 0 に加熱した。反応温度に到達したところで、1 0 0 m l のイソブタノール中に溶解した 1 5 . 3 g の A M B N 開始剤を 1 時間にわたり添加した。これに続けてその温度でさらに 5 時間攪拌した。室温まで冷却した後、減圧下で溶剤を除去した。得られたポリマーのモル質量  $M_w = 12000 \text{ g/mol}$  (GPC による、対照試料：ポリエチレングリコール)

【誤訳訂正 3 2】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0 0 5 6

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0 0 5 6】

顔料配合物の評価

色彩強度及び色相は D I N 5 5 9 8 6 に従い測定した。摩擦試験 (R u b - O u t - T e s t) は、分散ペイントと顔料分散体とを混合した後、分散ペイントをペイントカードに塗布した。その後、適用されたコーティングのうちペイントカードの下部を指で摩擦した。その時、近接の後処理していない部分と比較して摩擦部分が強い色又は輝く色を有している場合は、不適合性が存在した (独国特許発明 2 6 3 8 9 4 6 号明細書に記載の摩擦試験 (R u b - O u t - T e s t))。色彩強度と適合性は着色すべき媒体と共に、外装用の分散ペイントを使用して測定した (水性 2 0 % T i O<sub>2</sub>)。